

第5学年 家庭科 学習指導案

どのような買い物がより良い消費行動か  
～柚子っ子を事例にエシカル消費を学ぶことを通じて考える～

奈良教育大学教育学部社会科  
山之内健人

1 単元名

どのような買い物がより良い消費行動か  
～柚子っ子を事例にエシカル消費を学ぶことを通じて考える～

2 単元目標

- ・エシカル消費を学ぶことを通じて、買い物が自分自身を世界や社会、自然などと結びつけていることを理解する。 【知識・技能】
- ・自分の買い物を世界や社会、自然環境などと結びつけて考え、よりよい消費行動について表現する。 【思考力・判断力・表現力】
- ・自分自身の消費行動を見直すことを通じて、世界や社会、自然環境などを見つめようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】

3 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①エシカル消費について理解している。 ②自分の消費行動と世界や社会、自然環境などの間には関係性があることを理解している。	①これまでの消費行動とエシカル消費を比較して考えている。 ②自分の消費行動と世界や社会、自然環境とのつながりについて表現している。	①自分の消費行動を世界や社会、自然環境などのかかわりから見つめなおそうとしている。

4 単元について

(1)教材観

本単元は『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭科編』「C消費生活・環境 (1)物や金銭の使い方と買い物」にあたる。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解すること。

(イ) 身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整

理が適切にできること。

イ 購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫すること。

本単元ではエシカル消費についての学びを通じて、自分の買い物と世界や社会、自然環境との結びつきについて気づかせたい。なぜなら、『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 家庭科編』「C 消費生活・環境」において持続可能な社会の構築に向けて身近な消費生活と環境をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育成することが狙いとされているからだ。消費行動を「自分⇄財・サービス」だけではなく、財・サービスの裏に隠れた目に見えない世界や社会、自然環境とのつながり、つまり「自分⇄世界や社会、自然環境」とも捉えられるような授業が求められていると考えられる。

さて、エシカル消費とは、消費者それぞれが各自にとって社会的課題解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うことである(消費者庁 2017)。この消費行動は私たちと世界や社会、自然環境と結びつけてくれる。例えば、ある会社の商品を購入すれば、その企業はアフリカの健康被害問題や自然環境の減少、過疎地におけるコミュニティの委縮化などの現代的諸課題の解決に向けて事業を展開できるとする。言い換えれば、その会社の商品を購入すると私たちは間接的に持続可能な社会の実現に貢献することができるのだ。私たちが豊かに生活し続けるために、このような消費行動は不可欠であることは間違いない。

そこで、本単元は「株式会社 柚子っ子」にスポットライトを当てることで、エシカル消費について学び、自分の買い物と世界や社会、自然環境との結びつきについて気づかせ消費行動を考える時間と位置づけたい。同社は農家の高齢化により無農薬のまま放置されてしまっていた柚を商品化し、柚を通じた地域のコミュニティを維持している。また同社は柚の商品化による事業の収益の一部をザンビアでの医療の寄付にあてている。コミュニティを作り出すことは人口減少社会の人々の幸福度を満たす重要事項であり(広井 2019:49)、発展途上国のザンビアで医療を行う吉田修氏の活動も持続可能な社会を築いていく上では外せない要素である。つまり、持続可能な社会をつくる事業(柚子っ子)が別の国の持続可能な社会をつくる活動(ザンビア医療)にもつながっているという正の連鎖には目を見張るものがある。

## (2)児童観

## (3)指導観

消費行動が「自分⇄商品」の関係だけではなく「自分⇄世界、社会、自然環境など」の関係性を生み出すことを認識させるために、以下の指導を取り入れる。

まず、エシカル消費から得た資金をもとに活動をしている人と子どもを出会わせたい。例えば、無農薬のまま放置されてしまっていた柚を商品化した株式会社柚子っ子の方や、同社による援助を受けザンビアで医療を行っている吉田修氏と出会えるチャンスをつくることができたとする。すると、子どもたちは自分たちの消費行動が間接的に過疎地でのコミュニティの維持やザンビアにおける健康問題の解決に向けての貢献が可能であることを学ぶことができる。

次に自分たちの消費行動に対する考えの変化を単元の始めと終わりから比較できるようにする。エシカル消費について柚子っ子の事例や実際に現代的諸課題の解決を目指して活動している人物、そして自分たちが調べた取り組みなど出会いから学ぶことを通じて、どのように自分の消費行動に対する認識が変化したのかを可視化することで価値観の変化に気づかせ、行動化へと促せるようにしたい。

#### (4)ESD との関連

・学習を通じて主に養いたい ESD の視点

##### 【多様性】

株式会社柚子っ子や他の機関の取り組みを調べることを通じて、消費行動の多様さに気づくことができる。

##### 【相互性】

自分の買い物と世界と社会、自然環境とがつながっていることに気づくことができる。

##### 【責任性】

持続可能な社会を築いていくうえで、自分たちに消費者としての責任があることに気づくことができる。

・学習を通じて育てたい ESD の資質・能力

##### 【システムズシンキング】

エシカル消費について学ぶことを通じて自分の買い物と世界や社会、自然環境とのつながりを総合的にとらえることができる。

##### 【クリティカルシンキング】

これまでの消費を批判的に検討することで、どのような買い物がより良い消費行動かを考えることができる。

##### 【コミュニケーション力】

「この買い物のすごいことの一つ目は～」 「この買い物は環境に優しい。なぜなら～」のように相手に伝わりやすい発表スキルとしてのコミュニケーションをとることができる。

・SDGs との関連

##### 【12 つくる責任使う責任】

#### 5 単元展開の概要(全 10 時間)

	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
1	発問		

	<p>お家の人は何を見て買い物をしているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物について知っていることを共有する。</li> <li>・自分が買い物についてわかったことをまとめる。</li> </ul> <p>2 発問</p> <p>柚子っ子の商品を買ってザンビアに住む人が笑顔になるまでの過程をできるだけたくさん考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・柚子っ子の商品をモデルにエシカル消費について学び、自分たちのこれまでの買い物との違いや共通点をグループで KJ 法を用いて話し合う。</li> <li>・自分が買い物についてどのように考え方が変わったかをベン図を使ってまとめる。</li> </ul> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで消費行動に関する質問づくりを行う。</li> </ul> <p>質問の焦点</p> <p>エシカル消費こそが世界や自然環境にとって望ましい消費行動である</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エシカル消費を通して</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな時に、何のために、どうやって、どういうところで、どんなものを買うかを立ち止まって思い出せるようにする。</li> <li>・子どもたちと柚子っ子の商品を食べる(ジャム、柚子胡椒、柚みそなど)</li> <li>・柚子っ子の商品を買うことで国内の環境保全、柚農家のコミュニティ、経済だけでなく発展途上国の医療に寄与することに気づかせる。</li> <li>・話し合いが滞っていたり、観点が偏っているグループのために「確かにそんな共通点があるね」「このグループがすごい発見をしたみたいだよ」などと良い例について全グループに聞こえるように声掛けをする。</li> </ul> <p>※質問づくりについては【質問づくり】に詳細</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エシカル消費による恩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①エシカル消費について理解している。【知技】</li> <li>②自分の消費行動と世界や社会、自然環境などの間には関係性があることを理解している。【知技】</li> <li>①これまでの消費行動とエシカル消費を比較して考えている。【思判表】</li> </ul>
--	---	--	--

4	<p>得た資金で持続可能な社会を創る取り組みをしているゲストティーチャーと出会う（柚子っ子、吉田先生??）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでつくった質問に対する答えとして作った成果物をクラスで共有する</li> <li>・より良い消費行動について自分の考えをまとめる。</li> </ul>	<p>恵を得て活動をしている大人と出合わせ、実態感を味わわせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーには子どもがつくった質問を伝えておく</li> <li>・エシカル消費についての知識や自分たちでつくった質問、柚子っ子について、ゲストティーチャーから得た学びを振り返りながら、より良い消費行動について考えられるようにする。</li> </ul>	<p>②自分の消費行動と世界や社会、自然環境とのつながりについて表現している。</p> <p>【思判表】</p> <p>①自分の消費行動を世界や社会、自然環境などのかかわりから見つめなおそうとしている。</p> <p>【主体的】</p>
---	---	--	--

#### 【質問づくり】

##### ・ねらい

…子どもが自らが質の問いを立て、それを生かして学びを進めることを促す(ダン・ロススタイン、ルースサンタナ 2015)

##### ・方法(同著)

- ①「質問の焦点」は教師によって考えられ、生徒たちが作り出す「質問」の出発点となる。
- ②単純な4つのルールが紹介される。
  - 1 できるだけたくさんの質問を出す
  - 2 話し合ったり、評価したり、答えを言ったりしてはいけない。
  - 3 発言の通りに質問を書き出す。
  - 4 工程分として出されたものは疑問文に転換する
- ③生徒たちが質問を作り出す。
- ④生徒たちが「閉じた質問」「開いた質問」を書き換える。
- ⑤生徒たちが優先度の高い質問を選択する。
- ⑥優先順位の高い質問を使って、教師と生徒が次にすることの計画を立てる。
- ⑦ここまでしたことを児童生徒たちが振り返る—学んだことは何か?どのようにして学んだか?など

**【参考資料】**

- ・文部科学省(2017)「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭科編」
- ・消費者庁(2017)「「倫理的消費(エシカル消費)」とは？」
- ・広井良典(2019)『人口減少社会のデザイン』、東証経済新報社
- ・ダン・ロススタイン、ルースサンタナ、[訳]吉田新一朗(2015)『たった一つを変えるだけークラスも教師も自立する「質問づくり」』、新評社